

『幸せ』は笑顔と誇りと共に・・・」

岐阜市立青山中学校 3年 名和由佳子

私は夏休みにタイ研修に参加した。事前研修や、実際のタイ訪問を通して、私はたくさんの人たちと出会うとともに、その人が持ついろいろな形の「幸せ」に出会い、私自身も今まで気づかなかった「幸せ」に気づいた。

タイ北西部の山岳地帯にあるラフ族の村で美しい民族衣装を着た一人の小さな女の子と私は仲良くなった。お互い言葉は通じないはずなのに、たくさん話をし、手をつなぎ一緒に遊び笑った。たとえ言葉は通じなくても顔を見ればお互いの気持ちが通じることがわかった。そして、私は気持ちが通じるということも「幸せ」なのだと気づいた。

また、日本の NGO が支援しているさくら寮の寮生でアカ族の少女ニチャーとも、言葉が通じないはずなのにたくさん話をした。そして、彼女が自分自身だけでなく自分の家族に「幸せ」になってもらえるよう、一生懸命勉強していることを知った。私は彼女の勉強に対する姿勢に感動し、年下の彼女に尊敬の気持ちを持った。そして、私は人を尊敬できることも「幸せ」なのだと気づいた。

また私は、この研修のなかで生まれて初めてのホームステイをした。実は私はホームステイがとても不安だった。だから、事前の打合わせの時に、勇気を出して自分が英語もタイ語もほとんど話せないこと、だからホームステイ先のジラファン先生に迷惑をかけるのではないかと心配でたまらないことを正直にメールに書いた。とてもドキドキした。

ジラファン先生からはすぐに返事が返ってきた。メールには「英語が苦手でも大丈夫、心配しなくていいよ、ボディランゲージで伝わるから。」と書いてあった。この一言で私の気持ちは楽になった。さらに出発前には「君を迎えることが私たち家族の喜びだよ。」と書いてくれた。私の不安な気持ちは完全になくなり、早く会いたいと思いながらタイに向かった。

先生の家での一泊は、温かい笑顔とやさしさに包まれた最高の経験になった。分かれるとき先生は、私を「もう一人の子ども」と言ってくれ、私を迎えることができ「幸せ」と話してくれた。私は優しさに包まれる「幸せ」を感じるとともに、お客さんを迎えることも「幸せ」なのだと知った。

私はこの研修を通してたくさんの「幸せ」に出会った。そして、その「幸せ」も身近にあるもので、特別なものではないことに気づいた。そして、「幸せ」のある所には誇りと笑顔があることに気づいた。きっとタイの人々がいつも温かい笑顔をしているのは、自分の特別ではない「幸せ」に気づいているから、そしてそのような「幸せ」を生み出す家族や国を誇りに思い大切にしているからなのだと感じた。そして、私もタイで出会った人々のように、身近な「幸せ」に気づけるようになりたいと思った。